



# 成人肺炎球菌感染症予防の 新時代

キャップボックス（PCV21）の登場

院長による解説動画は、  
さく内科クリニックの  
インスタかYouTubeを是非ご覧ください



さく内科クリニック  
総合内科・アレルギー内科

# 高齢者肺炎：一度の罹患が招く「負のスパイラル」



## ADL・フレイル悪化

入院により身体機能 (ADL) が低下し、要介護状態になったり、嚥下機能の低下



## 再発リスク増大

退院後も肺炎の再発や誤嚥性肺炎を繰り返し、健康寿命を縮めます。



## 生命予後への影響

肺炎になると、その後の10年生存率が有意に低下



さく内科クリニック

総合内科・アレルギー内科

# 侵襲性肺炎球菌感染症の脅威



## 高い致死率と劇症化リスク

肺炎球菌感染の約4分の1が、髄膜炎や敗血症といった重篤な感染症を発症します。発症時の致死率は約2割に達し、入院後48時間以内に死亡するケースも半数を超えるなど、急速に悪化する危険性があります。



## 高齢者は特に予後不良

加齢による免疫機能の低下に加え、基礎疾患を持つ方はさらにリスクが高まります。

「かかってから治す」ではなく「**予防**」が生命を守る鍵となります。



# インフルエンザ後に合併する「危険な肺炎」



## 二次性細菌性肺炎の最多原因

肺炎球菌は、インフルエンザ感染後に発症する細菌性肺炎の最も多い原因菌です。



## 予後の著しい悪化

ウイルスと細菌の重複感染は、単独感染に比べて重症化しやすく、死亡リスクが跳ね上がります。



## 今冬の対策が急務

呼吸器感染症の流行が予想される今、両方のワクチン接種による「二重の防御」が推奨されます。



# 現在の成人用肺炎球菌ワクチンの種類

定期接種  
(公費助成あり)

ニューモバックス (PPSV23)



- 対象：65歳の方など
- 23種類の血清型をカバーするが、免疫記憶がつきにくいポリサッカライドワクチン。

 短期記憶

進化

任意接種  
(自費)

キャップバックス (PCV21)



- 対象：全年齢
- T細胞依存性の免疫を誘導し、長期的な免疫記憶が期待できる結合型ワクチン。

 長期記憶

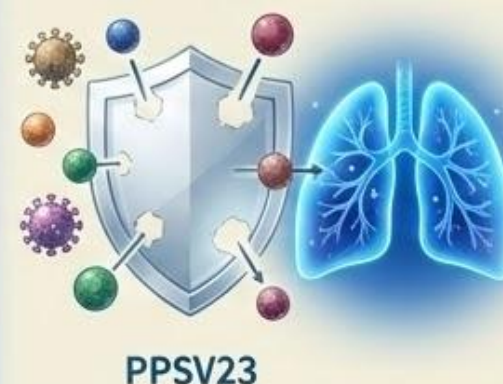
# 既存ワクチンの課題：「血清型置換」

## カバー率の低下



小児へのワクチン普及により、特定の型の肺炎球菌は減少しました。しかし、既存ワクチンに含まれない「別の型」による成人の感染が増加する現象（血清型置換）が起きています。

## 新たな脅威の出現



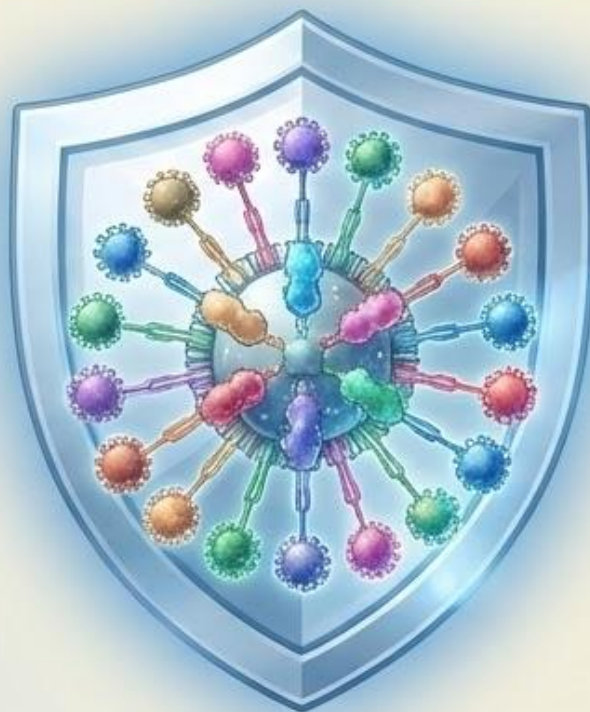
従来のニューモバックス（PPSV23）でもカバーしきれない血清型が、現在の成人肺炎の主な原因となりつつあります。これに対応する「進化したワクチン」が必要とされていました。

# この課題を解決する新ワクチン

## 21価ワクチン「キャップボックス」



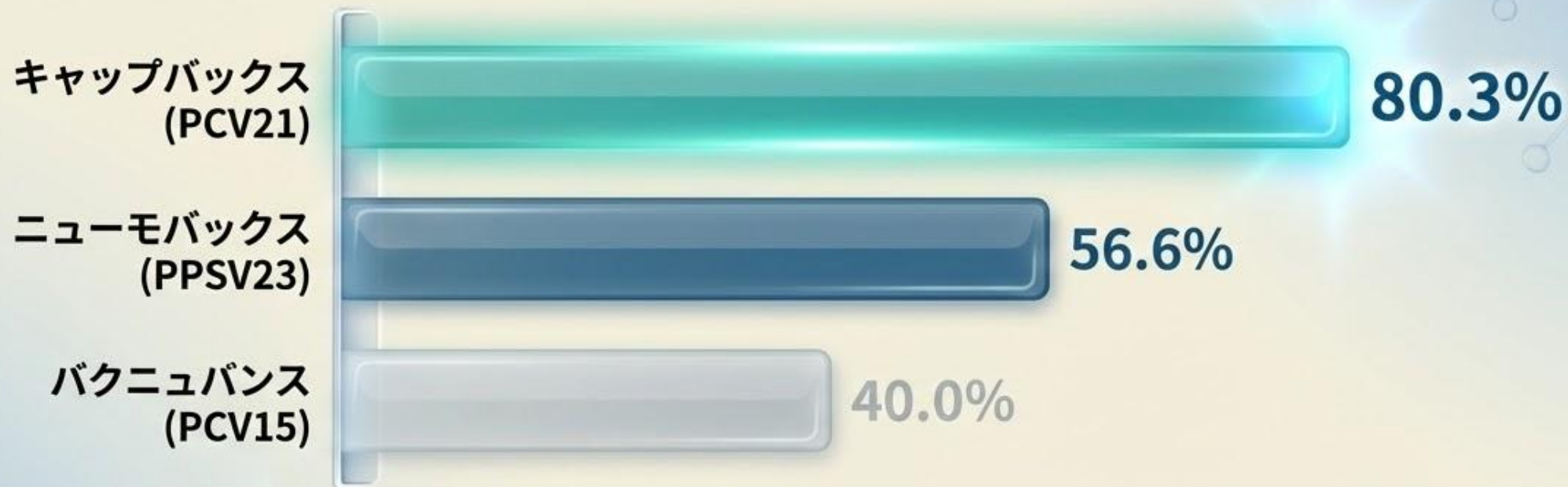
成人特有の疫学に  
焦点を当て、



国内流行株の大部分  
をカバーするために  
開発されました。

# 圧倒的なカバー率：国内データ比較

15歳以上の侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）原因菌に対するカバー率（国内サーベイランス）



キャップボックスは、従来のワクチンに含まれない8つの血清型を追加し、成人の原因菌の約8割をカバーします。

# 臨床試験（STRIDE-3）で示された有効性



## 共通する型での非劣性

比較対照薬（PCV20）と共通する10種類の血清型において、同等の免疫原性（抗体のできやすさ）が確認されました。



## 独自血清型での優越性

キャップボックスにのみ含まれる11種類の血清型においては、より高い免疫応答が示されました。



## 確認された安全性

注射部位の痛みや全身反応などの副反応はPCV20と同程度であり、忍容性に懸念はないと報告されています。



# 今後のワクチン接種の考え方



## まだ接種していない方

### まだ接種していない方



#### 65歳の定期接種なら

公費助成で従来のニューモバックスを2000円で利用可能です。……



#### 意味のある予防をするなら：

免疫効果が高くカバー範囲の広い「キャップバックス」が有力な選択肢です。このワクチンは公費助成がないので、役13700円程度かかります。さく内科ではこちらをお勧めします。



## ニューモバックス既接種者

### ニューモバックス既接種者



#### 推奨：キャップバックス（PCV21）

前回の接種から1年以上あけて接種。

#### ポイント：

5年後の「ニューモバックス再接種」の代わりに、キャップバックス（PCV21）を打つことで、ブースター効果と広範な予防が期待できます。

# さく内科クリニックからのメッセージ

## 5年経過していれば、 ご相談ください



肺炎は「予防できる病気」です。特にニューモバックス接種から5年以上経過している方は、新しい「キャップバックス」で免疫をアップデートすることをお勧めします。

当院では、患者様一人ひとりの接種歴や健康状態に合わせて、最適なスケジュールをご提案します。

